

教育に根本的に必要なもの

校長 高橋 実

例年以上に暑い夏休みが終わり、新田小学校には子どもたちの声が響き渡っています。全校児童が体育館に無事に集まった姿を見て、とても幸せな気持ちになりました。10月19日に予定されている「運動会」の準備も始まりました。秋はその他に「新田祭」もあり、子どもも大人も忙しい日々が始まりです。みんなで協力しながら頑張っていきたいと思います。

ところで最近の世の中は、自分さえよければいい、という風潮が蔓延しているように感じられ、息苦しく思う時があります。世界を見渡せば、自分の国だけよければいいのだという、いわゆる自国ファースト（自国第一主義）という考え方の国家指導者が目立ってきました。さらに自分のために国家の命運を左右してしまう自分ファーストにならなければいいが、とハラハラしてしまいます。テレビやネットでは、「あおり運転」のニュースが連日報道されました。これも自分中心にしかものごとを考えない人の所業と言えるでしょう。自分中心にしかものごとを考えられない人が多い世の中は、不安で息苦しい世の中と言えます。ふと「天国と地獄の長い箸の話」を思い出しました。人はいつも関わり合いながら、お互いを助け、思いやりをもって生きていきたいものです。

誰もが安心して豊かに生きていける世の中をつくるには、教育の力が大きいと感じています。夢を抱いたり、想像豊かに思い描いたり、美しいものを美しいと感じ取ったり、そうしたことを行う想像力（創造力）や感性の豊かである人が増えていくことが、世の中のささくれだった「荒れ」を収めていくことにつながるのではないかと考えています。道徳教育も教科化されましたが、こうあるべきという倫理観を押し付けたり、教訓的寓話を読ませたりしても、教育的効果が上がるわけではありません。心を根本的なところで耕さなければ、心の安定も、思いやりも、正しい判断も困難です。若く感性が瑞々しいうちに、美しいもの、崇高なものに触れさせることは、その人の世界を広げることになり、自分以外の人のことにも思いを寄せることができ、他人の心情や置かれた状況などにも想像力を働かすことができるようになるでしょう。思考の材料となる知識も大切ですが、心を根本的なところで耕していくことが何よりも大切で、そのために私たち大人は子どもたちのために何をしていたら良いのか、日々考え続け実践していきたいと思います。